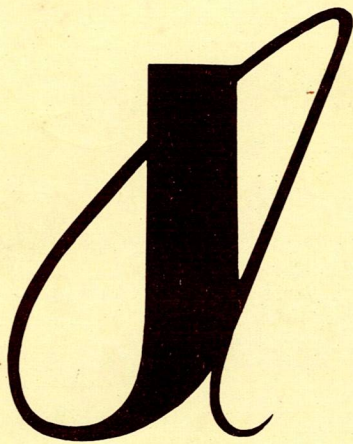


第3回

文化庁助成

全国アマチュアオーケストラフェスティバル

千葉大会



1975年10月4日～5日
千葉県文化会館大ホール

日本アマチュアオーケストラ連盟とは	3
あいさつ	4~5
歓迎のことば	6
フェスティバルオーケストラ紹介	7
出演者名簿	10~11
指揮者紹介	12
日程表	13
演奏曲目	16
曲目解説	17
加盟団体プロフィール	20
加盟団体リスト	30
本部役員名簿	33
協賛者名簿	34

第3回 全国アマチュアオーケストラフェスティバル 千葉大会

主催 日本アマチュアオーケストラ連盟・千葉県音楽振興協議会・千葉交響楽団協会

後援 文化庁・千葉県・千葉県教育委員会・千葉市教育委員会・NHK・朝日新聞千葉支局

JAO

日本アマチュアオーケストラ連盟とは

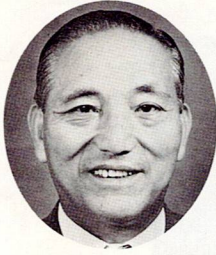
全国各地のアマチュアオーケストラの活動は年々盛んになり、その地域社会での存在意義は大きなものがあります。しかし各地で地味な活動を続けている各団体の実態はなかなか、その詳細を把握できませんでした。そうした中で、全国のアマチュアオーケストラが手を結び、演奏活動・技術の交流、音楽祭の開催、悩みや情報の交換、相互の親睦をはかること……などを目的に「日本アマチュアオーケストラ連盟」が昭和47年に結成されました。

まだ、発足後日も浅いので、現在33の団体が加入していますが、全国のアマオケがほとんど網羅されるようになるには、まだ時間を必要とすると思われます。

連盟の事業の一つとして、全国アマチュアオーケストラフェスティバルが年1回開催されることになり、第1回は豊橋市で(48年)、第2回は広島市で(49年)開かれ、本年、第3回として千葉市で開かれることになりました。今後も各オーケストラのこれまでのペースを乱すことなく、横のつながりを強固なものとし、とかく孤立しがちなアマチュアオーケストラの弊をのりこえて、「音の泉の広がり」をモットーに活動してまいりたいと思います。

ごあいさつ

日本アマチュアオーケストラ連盟 第3回フェスティバル会長 泰道 照山



今回、私が会長をいたしております千葉交響楽団協会が世話役をおおせつかり、千葉県で第3回目のアマチュアオーケストラ全国大会が開催されることになりましたことは、大きな責任の重圧は感じますけれども、誠に光栄且欣快にたえません。全国のオーケストラの皆様は、その成長の経緯こそちがいますが、それぞれ永年の研鑽と努力を重ねられて、今回のフェスティバルに御参加される方々ばかりであります。この各位の精華の結集が今大会でございまして、開催県民の喜びと同時に正に文字通り御同慶に堪えません。又今回の大会を通じ、アマチュアオーケストラ連盟の目的と意義と且つその活動の一端を全国民に知って頂く良い機会にでもなりますならば、誠にもって望外の幸せと存じます。私たち関係者一同は、大会に備えて、数ヵ月前より、熱心に準備いたしてまいりましたが、尚且つ皆様の御意志に添わぬ手落ちがあるものと存じます。この点につきましては何卒御寛容の程を御願ひ申し上げます。

終りに、この大会開催について、終始御懇切なる御指導下さいました渡辺先生には、先づこの紙上をもって謝意を表しますとともに、文化庁始め千葉県庁、千葉市、並びに御支援下さいました多数の方々及び協会の役員諸賢と楽団員諸兄に対し、深甚の敬意と謝意を表します。今後共一層の御協力と御指導御鞭撻を御願ひいたしまして、粗辞ながら御あいさつに代えさせて戴きます。

第3回フェスティバルを迎えて

日本アマチュアオーケストラ連盟 理事長 神野 太郎



昭和47年に本連盟が創立されてから、はや四年を経ました。当初は“音の泉の広がり”のモットーの下に出発はしたものの、多くの不安と期待の入り混った状況でありました。

しかしその後、会員の皆様の努力、文化庁はじめ各県市、関係団体の暖かい御支援のお陰で第1回の豊橋、第2回の広島と交流の輪を広げ、本日ここに第3回のフェスティバルを千葉市に於て開催する運びとなりました。この連盟の主旨である「全国各地域でのオーケストラ活動の振興」の立場から言っても、この年一回の大会が、会員の日常活動にどれだけ大きな精神的原動力になっているか、参加した皆様でなければわからない共感の2日間であります。そこではぐくまれた連帯や友情が再び全国各地域に持帰えられ、又花開くことでありましよう。更に本年からは会員も増加し、この千葉大会は本連盟の将来を占うにふさわしい規模内容共に充実したものになることを期待し、第3回大会の担当をされた市川交響楽団の皆様はじめ千葉県、市、各団体、市民各位に心からの謝意を表すものであります。

舞台写真の飯島です。

飯島は10年を迎えました。今年、カルチュア、トラベル部門を創設いたしまして舞台写真との3本柱で、音楽、バレエ、演劇等の舞台に関するオーガナイザーとして、歩み始めています。

(株) テス・飯島舞台写真

代表取締役社長 飯島 坦

東京都杉並区井草2-8-16

TEL. 03-395-5355

フェスティバルオーケストラ紹介



今日演奏するオーケストラほど、アマチュアの特徴をもったオケはないでしょう。全国のアマチュアの中から集まった有志によるメンバーにより編成され、まさに年齢・職業などさまざま。しかし、腕におぼえのあることと音楽を愛することにかけては人後に落ちない面々ばかりです。なにしろ初めて顔を合せてわずか9時間余の練習で、翌日には本番を聴かせようというのですから、日本全国どこにもないオケであることはたしかです。

今日は、北から南から集まった音楽の虫が130人をこえることになりますが、渡辺・早川両先生のご指導のもとに、短期決戦でまとめ上げた成果を精一杯発揮し、きっと皆さんにご満足いただけるものと確信いたしております。

ピオバ楽器社

東京都・千代田区・神保町1の11
電話・295-0101(代)
郵便番号・101

フェスティバル出演者名簿★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

○上教領清香(市川)

バイオリン

- 佐藤 敏雄 (秋田市民管弦)
- 高見 忠憲 (秋田市民管弦)
- 高橋 脩三 (岩手県民オケ)
- 鈴木 重哲 (茨城交響楽団)
- 竹沢 勤 (茨城交響楽団)
- 後藤 容子 (茨城交響楽団)
- 黒沢 朋子 (茨城交響楽団)
- 風間国三郎 (栃木県交響楽)
- 遠山つぎ子 (栃木県交響楽)
- 矢崎 洋子 (栃木県交響楽)
- 螺良マサ子 (栃木県交響楽)
- 星 万里 (栃木県交響楽)
- 本田 ひさ (前原ウインド)
- 中島 三枝 (前原ウインド)
- 角田 葉子 (前原ウインド)
- 浅岡 幸男 (富士ジュニア)
- 河原 寛 (静岡県交響楽)
- 山本 憲 (名古屋市民管)
- 加藤 沢子 (名古屋市民管)
- 吉田 緑 (名古屋市民管)
- 坂倉 元 (三重フィル)
- 大塚 哲夫 (新潟交響楽団)
- 大橋 昭子 (大津管弦楽団)
- 牧野 憲昭 (大津管弦楽団)
- 高垣 至 (西宮交響楽団)
- 藤本 雅和 (西宮交響楽団)
- 田辺 彰策 (広島ジュニア)
- 近藤 和子 (徳島市民管弦)
- 金山 葉子 (田川ジュニア)
- 上田 睦子 (田川ジュニア)
- 下田 理佳 (田川ジュニア)

- 綾部 光治 (田川ジュニア)
- 浦 麻水緒 (佐世保市民管)
- 室田 章子 (MBCジュニア)
- 堤 教子 (MBCジュニア)
- 室田 素子 (MBCジュニア)
- 山口 憲次 (習志野フィル)
- 加藤 広行 (習志野フィル)
- 岸本 正春 (習志野フィル)
- 大内みち子 (習志野フィル)
- 石井 久雄 (市川交響楽団)
- 小川 和美 (市川交響楽団)
- 小川 起恵子 (市川交響楽団)
- 金指 和哉 (市川交響楽団)
- 金指 和代 (市川交響楽団)
- 木佐 貫秀彌 (市川交響楽団)
- 熊谷 信昭 (市川交響楽団)
- 島貫 俊秀 (市川交響楽団)
- 島貫 百合子 (市川交響楽団)
- 多田 芳枝 (市川交響楽団)
- 中村 梨里 (市川交響楽団)
- 永田 匡 (市川交響楽団)
- 二宮 伸雄 (市川交響楽団)
- 深沢 武夫 (市川交響楽団)
- 福井 康祐 (市川交響楽団)
- 福原 祥子 (市川交響楽団)
- 松山 和子 (市川交響楽団)
- 村上 葉子 (市川交響楽団)
- 吉岡 一郎 (市川交響楽団)
- 吉川 多津子 (市川交響楽団)

ピオラ

- 松浦 多美 (札幌フィル)
- 大越 紘輝 (岩手県民オケ)

- 上村 誠 (岩手県民オケ)
- 水越 澄人 (茨城交響楽団)
- 杉原 康彦 (栃木県交響楽)
- 渡辺 敏夫 (栃木県交響楽)
- 加藤 貴子 (栃木県交響楽)
- 池山 光子 (栃木県交響楽)
- 山岸美和子 (前原ウインド)
- 土井 宣雄 (静岡県交響楽)
- 野部 実 (新潟交響楽団)
- 五重目 智子 (広島ジュニア)
- 松本 寛三 (長崎交響楽団)
- 牛島 啓子 (熊本交響楽団)
- 吉田美知子 (熊本交響楽団)
- 坂上 耕三 (習志野フィル)
- 大豆生田 稔 (市川交響楽団)
- 齋藤 十一郎 (市川交響楽団)
- 沢田 健 (市川交響楽団)
- 篠田 杜夫 (市川交響楽団)
- 藤枝 通子 (市川交響楽団)
- 星 乘昭 (市川交響楽団)
- 横田 行雄 (市川交響楽団)
- 渡辺 圭一 (市川交響楽団)

チェロ

- 大友 正勝 (秋田市民管弦)
- 川崎 昌子 (茨城交響楽団)
- 生井 初枝 (栃木県交響楽)
- 榆井 桂子 (栃木県交響楽)
- 下司起 代美 (栃木県交響楽)
- 矢野 茂生 (栃木県交響楽)
- 二川 茂夫 (前原ウインド)
- 福田 順子 (前原ウインド)

信頼されて10年

Sunny

近日

NISSAN NEWシルビア

も登場



ニッサン
ニューシルビアLSX



日産サニー千葉販売株式会社

本社 千葉市稲毛海岸 2-1-21 TEL 0472(41)2132

名を厚くし 五口トフ。

- 杉浦 薫 (豊橋リード)
- 服部 博 (豊橋リード)
- 竹本 育代 (豊橋リード)
- 松田 (徳島市民管弦)
- 生駒 (徳島市民管弦)
- 楠本 信祐 (長崎交響楽団)
- 井出 佐久夫 (市川交響楽団)
- 植草 寛之助 (市川交響楽団)
- 小川 博嗣 (市川交響楽団)
- 楠田 敏二 (市川交響楽団)
- 桑田 秋光 (市川交響楽団)
- 福原 耕三 (市川交響楽団)
- 山口 勝規 (市川交響楽団)
- 横田 朝之 (市川交響楽団)

コントラバス

- 高佐 和幸 (茨城交響楽団)
- 小林 佐知子 (豊橋リード)
- 小北 篤 (習志野フィル)
- 鈴木 孝治 (市川交響楽団)
- 鈴木 達郎 (市川交響楽団)
- 飛田 正 (市川交響楽団)
- 牧野 一男 (市川交響楽団)
- 村上 信乃 (市川交響楽団)
- 薬丸 洋秋 (市川交響楽団)

フルート

- 鈴木 孝治 (富士ジュニア)
- 白井 啓道 (豊橋リード)
- 梶川 純司 (広島ジュニア)
- 五重目 真知子 (広島ジュニア)
- 新納 政美 (徳島市民管弦)
- 甲田 博志 (熊本交響楽団)
- 岡本 恂三 (市川交響楽団)
- 木村 純一 (市川交響楽団)

- 柴田 重信 (市川交響楽団)
- 竹中 靖 (市川交響楽団)

オーボエ

- 久住 純信 (埼玉交響楽団)
- 佐野 宏 (埼玉交響楽団)
- 細川 充 (諏訪交響楽団)
- 相田 純久 (新潟交響楽団)
- 高山 公孝 (市川交響楽団)
- 秦 俊夫 (市川交響楽団)
- 坂 逸郎 (市川交響楽団)

クラリネット

- 済木 博隆 (佐世保市民管)
- 青柳 治幸 (習志野フィル)
- 池田 八十二 (市川交響楽団)
- 伊藤 順夫 (市川交響楽団)
- 時田 雄 (市川交響楽団)
- 永田 豊 (市川交響楽団)
- 半藤 嗣人 (市川交響楽団)

ファゴット

- 河合 勝 (豊橋リード)
- 加納 清 (諏訪交響楽団)
- 辻 政弘 (大津交響楽団)
- 金坂 哲 (市川交響楽団)
- 森本 純一 (市川交響楽団)
- 米原 光夫 (市川交響楽団)

ホルン

- 桜井 健二 (帯広青少年)
- 山本 保明 (大津交響楽団)
- 天野 晶吉 (市川交響楽団)
- 小川 芳雄 (市川交響楽団)
- 越塚 康夫 (市川交響楽団)

- 小林 秀之 (市川交響楽団)
- 高橋 隆一 (市川交響楽団)
- 高橋 美枝子 (市川交響楽団)
- 福田 陽 (市川交響楽団)

トランペット

- 塚田 晃尚 (帯広青少年)
- 小笠原 規雄 (帯広青少年)
- 岡村 利美 (広島ジュニア)
- 桑村 益夫 (市川交響楽団)
- 竹村 一利 (市川交響楽団)
- 山本 昭 (市川交響楽団)

トロンボーン・チューバ

- 長沢 正吉 (大津交響楽団)
- 佐々野 敏博 (長崎交響楽団)
- 上村 繁隆 (市川交響楽団)
- 太田 一之 (市川交響楽団)
- 津田 雄二郎 (市川交響楽団)

打楽器

- 原 延一 (西宮交響楽団)
- 難波 信行 (広島ジュニア)
- 岩橋 正治 (市川交響楽団)
- 小坂 克志 (市川交響楽団)
- 内藤 弘之 (市川交響楽団)

ハーブ


- 早川 利恵子 (市川交響楽団)

健康なからだで運転しましょう


コンピュータドック


プレゼント 実施中

- おクルマをご契約いただいた方へ
健康をチェックするカードをお届けします
- コンピュータドックからの回答は約1ヵ月後です
- あくまでも健康チェックです。
健康診断は専門医にご相談ください。



カローラ30デラックス





♥ひと味手あついハートサービス♥

トヨタカローラ千葉

本社 / 千葉市幸町1-6-3 ☎0472(41)9111

指揮者紹介



渡辺 暁雄 (わたなべ あけお)

大正8年6月5日 東京都に生まれる
 昭和15年 東京音楽学校本科器楽科卒
 17年 同 研究科卒
 18年～20年 東京放送管弦楽団員
 21年 日比谷公会堂において指揮デビュー演奏会
 23年 東京フィルハーモニー交響楽団専属指揮者
 31年～43年 日本フィルハーモニー交響楽団の創設に参画するとともに常任指揮者、常務理事をつとめる

昭和33年 シベリウスをはじめとするフィンランド音楽の日本紹介の功により、フィンランド政府から第1級騎士獅子勲章授賞
 37年～42年 東京芸術大学教授・音楽学部指揮科主任
 38年 シンフォニー・オブ・ジ・エア楽団演奏会の指揮をして海外における指揮活動のデビューを行なう。ディミトリ・ミトロプーロス国際音楽コンペティション(指揮者のための)審査員を行ない、同音楽委員に就任、現在に至る
 フランス音楽紹介の功によりフランス政府よりシュバリエ・デ・ザール・エ・レトル勲章授賞
 40年～43年 社団法人 日本演奏連盟 理事
 41年～43年 日本指揮者協会 幹事長
 42年 日本芸術院賞授賞
 44年 国内活動とともに国際的指揮活動も広く行なうためスイス国ジュネーブ市に住所を移す
 ロンティボー国際音楽コンクール審査員
 45年 ディミトリ・ミトロプーロス国際音楽コンペティション審査員
 45年～47年3月 京都市交響楽団音楽監督・常任指揮者に就任
 47年4月 東京都交響楽団音楽監督・常任指揮者に就任 東京芸術大学非常勤講師

早川 正昭 (はやかわ まさあき)

1934年千葉県に生れる。6才から作曲を始め、12才の時平井康三郎氏に師事、東大卒業と同時に芸大作曲科に入学、作曲を長谷川良夫氏、指揮を渡辺暁雄氏に師事した。作品のいくつかは外国でも出版され演奏されている。特に1970年に作曲された広島原爆をテーマにした「レクイエム・シャーンティ」(西ドイツ・ツィンマーマン社より出版)は、東京ヴィヴァルディ合奏団の主要プログラムとして、ヨーロッパ各地で演奏され、各国の聴衆に深い感銘を与えた。その他、東宝映画「父ちゃんのポーが聞える」の作曲を担当したり、ヴィヴァルディに関する訳書を出版するなど幅広く活動している。また、指揮者としても、三回のヨーロッパ旅行で、いずれも絶讃を博している。元 広島大学助教授。



<技術指導のための講師>

弦楽 田中雅彦 (NHK交響楽団・コントラバス) 金管 福井 功 (NHK交響楽団・トランペット)
 木管 似鳥健彦 (NHK交響楽団・オーボエ) 打楽器 網代景介 (国立音大教授、N響団友・パーカッション)

フェスティバル日程

第1日・10月4日(土)

午前11:00～11:20	開会式	小ホール	
" 11:20～12:20	講演及び討議 講師・西村弘治	小ホール	
午後 1:10～ 5:05	全体練習 早川正昭指揮：ニュールンベルグの名歌手前奏曲 渡辺暁雄指揮：ペールギュント組曲 " : 交響曲第3番「英雄」	大ホール	公開
午後 5:10～	市川交響楽団歓迎演奏（金子建志指揮） ビゼー作曲「カルメン」組曲より	大ホール	公開
午後 5:25～ 6:25	グループ研修	各会議室他	
午後 6:50～ 8:40	記念パーティー	第2, 3会議室	

第2日・10月5日(日)

午前 9:00～12:10	全体練習 名歌手、ペールギュント、英雄	大ホール	公開
午後 1:00～ 3:20	総練習	大ホール	
午後 3:30	一般聴衆受付		
午後 4:00～ 6:15	フェスティバル・コンサート ワグナー：ニュールンベルグの名歌手前奏曲 グリーグ：組曲「ペールギュント」 ベートーベン：交響曲第3番「英雄」	大ホール	公開
午後 6:15～ 6:30	閉会式		

藤化成株式会社

千葉県市川市平田2-24-4
電話 0473(22)3231

演 奏 曲 目

I. 楽劇「ニュールンベルグの名歌手」前奏曲……………ワーグナー
(指揮・早川正昭)

II. ペール・ギュント……………グリーク
(指揮・渡辺暁雄)

第1組曲 朝
オーゼの死
アニトラの踊り
山の魔王の宮殿にて
第2組曲より ソルベークの歌

III. 交響曲第3番変ホ長調作品55「英雄」……………ベートーベン
(指揮・渡辺暁雄)

第1楽章 アレグロ・コン・ブリオ 4分の3拍子
第2楽章 アダージョ・アッサイ ハ短調 4分の2拍子
第3楽章 スケルツォ アレグロ・ビバーチェ
変ホ長調 4分の3拍子
第4楽章 アレグロ・モルト 変ホ長調 4分の2拍子

ニュールンベルグの名歌手・前奏曲（1867年作曲）

ワグナーは19世紀ドイツロマン主義音楽が生んだ巨匠である。然も大作曲家というだけでなく、自ら台本を書き、脚色をし、指揮・演出をしたばかりか、逐には自分の作品上演の為の大劇場まで造りあげるといふ超人的な偉業を為し遂げた。前人未踏の分野を開拓した点ではベートーベンにも比すべき天才であった。

彼の作品はその殆んどが古代や中世の神話・伝説によりどころを求めているにもかかわらず、そして多くのテーマが正義と愛を志向しているにもかかわらず、その作品の中から強烈な世俗臭が噴出して来るのは結局彼自身を作中の英雄や主人公に擬して自己実現を計ろうとした結果に他ならない。

実際、少年期に早くもはじまった流浪と下積の時代、パリでの漂泊生活、長い亡命生活、恋愛事件、そして絶ゆざる論敵との抗争など、彼の人生そのものがドラマであったと言ってよい。

楽劇「ニュールンベルグの名歌手」はこのような変転のあとに訪れた円熟期の作品で、ここでは大時代的な気負いや英雄的雰囲気的な姿をひそめ、軽妙にして諧謔的な調子で貫れており、いわば喜歌劇と言ってもよい。

そしてこの前奏曲は楽劇の性格をよく反映して、明るく、楽しい作品であり、親しみやすいメロディ、色彩豊かな音色、そしてフーガの技法を用いた素晴らしい管弦楽法によって演奏時間10分程の短い曲ながら、不朽の作品として残っている。

英雄交響曲（1804年作曲）

第一・第二交響曲ですでに先輩ハイドンやモーツァルトの交響曲を凌ぐ程の域に達していたとは言え、伝統的な作風から脱しきれなかったベートーベンが、第三交響曲において何ゆえにこれ程までに飛躍的な高さにまで到達し得たのかは謎である。

25才の頃からあらわれはじめた耳の疾患がだんだんとひどくなり、前途を悲観して自殺を計ろうとしたあとで立ち直った事が彼を変革させたのであろうか。それとも、俗に伝えられるように、ナポレオンこそ自分の待望していた救世主としての英雄である、と信じた事がこの曲への活力になったのであろうか。

いずれにしても同時代の天才モーツァルトが、自分の生活や境遇を作品に直接には表現しなかったのに比べ、彼は一生を通じて反映していた事を考えると、この作品の作られた頃に何か大きな精神的な変化、内面の成長があったに違いない。

むろんそれは権力と地位の獲得に野心を燃やす「英雄」とは全く相入れないものであって、その意味では彼がこの作品にナポレオンを投影していたとしたらはじめから見当違いの事であり、後に彼に失望するのは当然の成りゆきであった。

この作品は内容的にすぐれている事はむろんの事、楽器の用法などの技術的な面や、楽章の配列、及び夫々の楽章内における構成や展開、という形式面でもそれまでの作品に比べて格段の差があり、彼の全作品を代表するだけでなく、古典音楽の記念碑的存在である。

ペールギュント（1874年作曲）

グリークは19世紀中葉から世界的風潮となってきた国民主義音楽の代表者の一人であり、ノルウェー音楽の確立者でもある。ロシアやボヘミアに比べればその自己主張も幾分控え目で、むしろ伝統的な作風ではあったが、珠玉の如き作品はいつまでも新鮮さを失わずに人々の心に訴えてくる。

文学上ではグリークと似たような地位を占めていた文豪イブセンの戯曲「ペールギュント」に魅せられてその附随音楽の作曲にとりかかったのは31才の時、有名なピアノ協奏曲をすでに世に送り、音楽家として一応名をなした頃であった。物語りの内容によくマッチしただけでなく、曲自体がすぐれたものだったので、後に作曲者自ら8曲を撰んで第一・第二組曲として編成し直し、代表作の一つとなった。芝居の方はこの音楽のおかげで生き残ったと言っても良い程である。（実際、芝居の上演は今日ではあまり多くなく、日本では戦前に一回、そして戦後は今から数年前に六本木の小劇場で青俳座により上演されただけである。）

本日は次の5曲が演奏される。

1. 朝
ペールがモロッコにたどりついた時に見た南国のさわやかな朝の情景。
2. オーゼの死
ペールの母オーゼが息子の放蕩を嘆き、行く末を案じながら永遠の眠りにつく哀しみのうた。
3. アニトラの踊り
アラビアにやってきたペールを誘惑しようと酋長の娘アニトラが妖艶におどる舞曲。
4. 山の魔王の宮殿にて
故郷の村をはなれて山中深くさまよっている時に現れた悪魔達がペールを害せんと迫ってくる不気味な音楽。
5. ソルベグのうた
いつまで待っても帰ってこないペールを、それでも信じて一人淋しく待ちこがれる許嫁ソルベグが切々と唄う愛の唄。

加盟団体のプロフィール

帯広青少年リードオーケストラ

北海道の田舎町、人口14万そこそこの帯広にもオーケストラを編成したいと考えてみたものの、弦人口の全くないこの地域では不可能なことから考えられた。しかし、合奏を味わいたい、楽しみたいという学生・一般社会人が、身近に有る楽器を持ち寄って編成されたのが帯広青少年リードオーケストラの先輩たちである。

四季の変化に富んだこの地域も、真冬ともなると零下30℃は、はるかに越えオーバなどで身を包み、首をすくめながらの団員たちが、冷えきった会場に集まり音楽を語り合う。

練習には手袋を着用していても指がこごえて動かない、管のピストンが凍りつき動かない、大雪のために練習場にたどりつけない、などなど……こういう日が3ヶ月位もあるために練習がなかなか進まないものである。いや、このように一年の4分の1も屋内に閉じ籠らなければならない地域であるから、室内で出来る音楽が必要であると強調するむきもある。

少ない音楽人口、指導者の不在、青少年の都会流出、といろいろ問題の多いこの地域であるが、アマオケ連盟の活動に勇気づけられ全国の仲間に教えられながら、この北海道の片田舎に本格的なオケに開花をさせるべく努力して行きたい。

札幌フィルハーモニー管弦楽団

札幌フィルハーモニー管弦楽団は発足4年を数えています。第1回定期演奏会では団員一同無我無中の演奏のうちに幕を閉じた状態でしたが、その後5回の定期演奏会を経験し、また札幌市民劇場などにも参加する中で、一步一步練習の成果を結実させて参りました。

当団は文字通り Philharmony すなわち音楽愛好者の集まりで、団員の願いは一人でも多くの皆さまに生の音楽を味わっていただくことにあります。幸い演奏会の度ごとに、広い市民会館が立すいの余地もないほどに満員になるということは、札幌市民の多くが、札幌フィルに大きな魅力を感じていることに他ならないでしょうであります。練習場の問題、資金の問題等等、多くの困難がありますが、音楽に親しむことのうすい北国の人々に詩情豊かな文化の花を咲かせようと、団員一同がんばっています。

秋田市管弦楽団

戦後2・3のオーケストラが経済的事情、練習場、指導者等の事情により存続できずに消滅していったが、昭和43年12月、秋田市文化団体連盟の後援、一般市民愛好者を中心に、秋田大学音楽講師佐藤先生の指導により今日に至っている。

地理的環境から生の音楽をきく機会の少ない、当秋田市民の音楽愛好者から歓迎され、その支持のもとに継続されている。団員35名、教員、公務員、社長、会社員、店主、学生、とさまざまな職業人の集まりで、毎週水曜日には全員が集まれないことがしばしばであるが、雨の日も吹雪の日も熱心に指導される先生を中心に練習をつづけ、近く第9回の定期演奏会を迎える予定である。

昭和44年第1回定演でのハイドンの交響曲「時計」を皮切りに、毎年2回の定演と地方公演、県芸術祭への出演等あり、数多くの名曲に取組み、特に昭和46年東京交響楽団との共演により地元合唱団を総動員して、秋田で初めて、ベートーベンの「第九」を演奏したことは、団の歴史上特筆すべき事であると同時に、団員一人一人に良い思い出と音楽のもつ素晴らしさを与えたものであると確信している。

この間、団員も卒業・転勤の関係で出入りは多かったが団員の音楽に対する熱意、文化団体連盟、秋田市管弦楽団を育てる会、一般聴衆の支持等により続けられてきた。

次の世代へバトンタッチするまで、又秋田市を芸術の香り高い街にするまでがんばりたいもの、そして少しでもうまく演奏し、聴く人にも喜んでもらいたいと団員一人一人が考えている。

山形フィルハーモニーオーケストラ

山形フィルハーモニー交響楽団は昭和28年設立。世相もようやくおちつきをとりもどし、人々の生活にもうるおいがではじめたころである。

創立当時は団員も30人ぐらい、なかには当時まだ高校生であった作曲家の服部公一氏などもおり、指揮などをやっていたという。また音楽的には全くといっていいほど素地のない街だっただけに、運営費も不足したり、練習場にすらこと欠くありさま。創立者の高坂先生が庭に自費で練習場を建てたほど。奥さんとともに苦勞してのオーケストラ活動は、群馬の「ここに泉あり」山形版といったところで、ご夫妻の苦勞は決して忘れてはならない。

昭和28年創立以来、年一回の定期演奏会のほかプロムナードコンサートや近隣の町や村に演奏旅行を行っていたが、創立10年目、山形フィルにとって第一のピンチをむかえている。メンバーの移動、特に転勤や家業が忙しく出席できない人が多く、昭和39年から実質4年間オーケストラ活動は休業状態になっている。しかし全くの休業でなく小規模ながら四重奏やトリオで練習活動をつづけていたことは事実。昭和42年の正月、山形市内に住む20才台の若いクラシック愛好家から山形フィル再建の声がおこり、再びオーケストラ活動がはじまっている。現在団員約60名。69才の高坂ドクターから高校生まで、年齢職業もさまざま。それだけに全員がそろうことはまずなし。また金がないことも、どこのアマオケとも同じ。また弦楽器人口をどう確保するかということもしかり。これらの難条件の中で頑張っています。

岩手県民オーケストラ

岩手県民オーケストラも結成以来、すでに4年目になりますが、その間ベートーヴェンの交響曲第1番、第3番英雄、第9番合唱、エグモント序曲、シベリウスのフィンランディア、チャイコフスキーの白鳥の湖、ビゼーのアルルの女組曲等を取りあげてまいりました。練習は盛岡市公民館の約100坪もある市民文化団体のために作られた練習場で毎月、第1・第3日曜日を定例練習日としております。財政面では収入は県から年額40万円、市より10万円の補助金と、会員1人年度会費、8,400円、更に後援会の寄付金約30万円等でありますが、台所はいつも苦しく、四苦八苦しているのが実情です。

指揮者は47・48年度は浜田徳昭氏、昨年からは前田幸市郎氏に毎月1回のご指導をいただいております。団員は、結成当時は83名でしたが、結婚・転勤その他で移動があり、現在では60数名と少なくなって居ります。私共の現在最大の悩みは、弦楽器奏者が不足していることです。それに毎年のことですが、アマチュアオーケストラの維持・運営は本当に苦難の連続です。効果的運営方法等について、先輩諸団体のご指導・ご助言をお願いしたいと思っています。

郡山市民オーケストラ

昭和46年1月創立であるが、33年前、当市で初めて誕生した1,500人収容の市民会館の出現に伴ってできた、郡山フィルハーモニーが源流である。その後、安積フィルハーモニーと、郡山ストリングオーケストラの二つの団体の演奏活動が行われてきた。郡山フィルハーモニー時代からの参加者は現会長の加藤輝彦、総務の佐藤司の両人がいる。安積フィルハーモニーの指揮者が亡くなり、再編の機運が盛り上がり、現在の郡山市民オーケストラができ上がった。市民による音楽文化づくりをモットーに各種文化行事に積極的に参加している。昨年は第1回定期演奏会でピアノの小林仁氏、地元出身の湯浅譲二氏を招き、モーツァルトの「コシファン・トゥッチ」序曲、ニ短調のピアノ協奏曲、31番「パリ」交響曲、湯浅氏作曲「藍より青く」抜萃曲を演奏し、本年はバイオリンの海野義雄氏を迎えて、モーツァルトの劇場支配人序曲、バイオリン協奏曲5番、ベートーベンの交響曲1番の演奏をこの11月9日にひかえている。

団員は3分の2が高校・大学生で占め、現在46名おり、市の補助金、郡山市民オーケストラ、郡山市民合唱団の後援会から楽器等の助成がある。練習は毎週金曜、中央公民館の地下室で、渡辺栄治の指揮で行ない、演奏会が近づいても週1回の練習回数の原則を守っている。

茨城交響楽団

創立は昭和35年だから、本年15才の若々しいオーケストラ。団員の最年少は10才、最高は60代で年齢差は半世紀に渡っている。水戸市が根拠地だが団員は各地に広がっており、最遠方は鎌倉に住んでいる。高校教師をしているチェロだが、毎週練習に通う交通費をかせぐために働いているのだろう。当地、千葉県からも習志野からチェロ、佐倉からホルンが参加している。

演奏会は定期が春秋の2回、その他に県内での演奏が1回。夏にはバロック・コンサートを催している。これは弦の育成のために著しい効果を上げているばかりでなく、バロックに接することの少ない定期の欠点をも補い、バロック愛好家の増加に伴い特色ある効果をもたらしている。他に室内楽や管を中心にして吹奏楽団を組織して活動している。

当団への加入には何の制限のないのも特色のひとつである。小中高校生が約30名を占めているので、平均年齢も若く20才。茨響を育てる世間の目も暖く、金銭的に協力してくれる後援会、それに鑑賞を生徒にすすめてくれる先生等協力者が多い。

今年は水戸市文化使節として親善都市四国の高松市で8月11日に演奏会を開いた。これは、日頃の活動が高く評価されたからだろう。団員一同チームワーク良く、今後も頑張るつもりです。

SHIKIBA MENTAL HOSPITAL

精神科・神経科

医療法人 式場病院

市川市国府台6-1-14 TEL.(0473)72-3567

京成バス(市川-松戸)栗山下車徒歩5分

栃木県交響楽団

本楽団は、昭和45年県内にあったいくつかのアマチュアオーケストラを一本化し県から初年度に400万円の補助を受け、栃木県交響楽団として発足しました。6年目を迎えた本楽団もすでに16回の定演、18回の巡回演奏そして県外での特別演奏さらに昨年海外遠征と発足以来、精力的な演奏活動を消化してきました。そうした演奏会を通じ、県都の宇都宮を中心に定着したファンも多くなり、今では「栃響」の名で県民に親しまれています。現在団員は72名、この栃響の特色と云えば何といっても女性の多いこと、(男女比は4:3)。殆どが学生とOLで平均年齢も22才と抜群に若いのです。親睦を兼ねた飲み会、スキー教室等の出席率も常に女性上位。勿論美人揃いですゾー。又、パートではオーボエが全員女性「どこかに、横暴な男性はいないかナー！」とは彼女達の一致した意見。

又、指揮者には昨年の11月以来、東京より新進気鋭の中島良史氏を迎えマンネリ化した我々にとって大変フレッシュなカンフル剤を与えてくれました。年間の県の補助(250万)と団の実績をプラスすると運営費は500万円にもなりアマチュアオーケストラとしては恵まれた条件にあると思っています。しかし何と云っても県の補助を受けているため、年4回の定演と4回の巡回演奏を余儀なくされており、団員にはかなりの負担がかかっているのも実状です。

ところで昨年はデンマークで開かれた世界青少年音楽祭に参加し優勝することができました。と同時にデンマーク各地での演奏旅行もしてきました。そして今年には11月29日東京の日生劇場で行われる全日本アマチュア青少年文化祭で演奏の機会を与えられ大変幸せに思っています。「メンバー確保」に苦労しつつ郷土の誇れるオーケストラにと団員一同はりきっている今日の栃響です。

市川交響楽団

東京の東、江戸川を渡ると千葉の表玄関が市川のまちです。当市は市木として松が有名で、江戸川の鉄橋を渡るとき、東北側の高台に生える濃い緑が、印象的です。又、市川は文化人が数多く住んでいることでも有名です。

当団は、現理事長、村上正治氏が創立されたもので、会長にはエスエス製薬会長の泰道照山氏が就任されて、力強いバックアップをして下さっています。当団のテーマは「県内に健全な純音楽の普及と啓蒙をはかり、平和な潤いのある生活がみちあふれることを願うこと」を演奏活動で実践させるといふ社会教育団体で、自分達の演奏する喜びを少しでも多くの人に分け与えようとする奉仕団体として一貫しています。来年創立25年を迎えますが、既に106回の定期コンサートを持ち、如何なる場合でも、毎回入場無料としていることが、特色です。他に県の事業として、年に4回程の県民コンサートを行い、各地の小中学校を巡回しています。市川だけに止ることなく、千葉県全体の文化活動の組織の一部門として、存在しているわけです。

当団には、他にジュニアオーケストラが、又、吹奏楽団、合唱団も益々意欲的に活動を続けています。現在オーケストラの登録メンバーは100名を越え、創立以来のメンバーも5名ほどおります。当団出身でプロになられた方々も多いのですが、今回の指揮者、早川氏、N響オーボエ似鳥氏、バス江口氏等、初期のメンバーです。練習は毎土曜日夜行っています。常任指揮者は、芸大出身の新進金子健志氏で斉藤秀雄、渡辺暁雄氏に師事なさった方です。

今回のフェスティバルのホスト役の光栄に浴し、感激の極みですが、皆様との共演、楽しみにお待ちしております。どうか、当地での音のふれあいを、よき思い出としていただけるよう念じております。

習志野フィルハーモニー管弦楽団

習志野市は船橋市と千葉市にはさまれた人口11万人の小都市です。町づくりの目標が「文教住宅都市」ということもあって市民のスポーツや文化活動が盛んです。最近の話題として、市立習志野高校が夏の高校野球大会で2度目の優勝をとげたことは皆さんも記憶に新しいところでしょう。さて音楽の方も盛んで、コーラスや管弦楽の優れた谷津小学校は長い伝統をもっていますし、3年連続全国一となった習志野一中管弦楽クラブ(部員90名)は市民の誇りです。こうした町に昭和44年、習志野一中OBも含めて市民オーケストラ「習志野フィル」が誕生しました。去る9月14日には第12回定期演奏会を開きましたが、年2回の定期的のほか、移動音楽教室や有志による室内楽活動などで多くの人々に聴いていただいております。アマ・オーケの宿命としていろいろな職業の人が参加しているだけに、練習時に集まりが悪かったり、仕事の都合で本番に出られない人があったりするので、もっとメンバーの増を願っているのですが(特に弦パート)将来、若い人の加入に期待しています。

最近の活動状況

昭和49年12月7日・第11回定期演奏会。

指揮・伴有雄、ピアノ・深沢亮子

交響曲第5番(ベートーベン)、ピアノ協奏曲戴冠式(モーツァルト)、モルダウ(スメタナ)。

昭和50年7月7日・県民コンサート・於鴨川

指揮・久保田孝

未成成交響曲、フィランディア、ハンガリー舞曲ほか。

昭和50年9月14日・第12回定期演奏会

指揮・久保田孝

交響曲第1番(ブラームス)、交響曲第25番(モーツァルト)、組曲「ハンガリーの情景」(バルトーク)。

前原ウインドミルオーケストラ

私たち前原ウインドミルオーケストラは、昨年の4月に現在の高校生が中心となって発足しました。前原小学校合奏クラブの卒業生ですべて編成されています。

船橋市立前原小学校は国電津田沼駅より北へ10分、立て込んだ住宅街にあります。合奏クラブが誕生したのは今から9年前、昭和41年4月に君津から佐治薫子先生が赴任されて来た時のことです。アコーディオン一台もなかった音楽室は、その日から楽しい歌声と明るい響きでいっぱいになりました。当初、部員は30名。ハーモニカを主体としたリード合奏からしだいに、チェロ、トランペット、オーボエ、ヴァイオリンなどを加え、今では日本でも数少ない本格的な、児童オーケストラとなっています。

そして今、ここに私たちがいます。佐治先生から数々の貴重な教えを受け、同じ教室で一つの音楽に取り組んでいた私たちは「小学校のクラブ活動だけに留まらず、いつまでも音楽をやっていこう」という、かけ声のもとに仲間が集まり、このオーケストラを結成するまでに至ったのです。

私たちは、「音楽の喜び」を広く皆さま方に伝え、良い音楽をたくさん聴いていただきたいと、練習を重ねております。そして生活の中に「生きた音楽」が、どの家の窓からも流れてくれれば……と願っています。

原則として毎週土曜日、前原小学校の音楽室で練習していますが、メンバーのバランスが悪かったり、高価な楽器や運営費の不足など問題はたくさんあります。また団員のほとんどが中学生で、学校もそれぞれ違います。しかし勉強やクラブのかたわら練習日には必ず全員集まり、心を一つにしてはりきっています。

第1回定期演奏会も盛会のうちに終り、これからもウインドミル（風車）の如く、地味でも一步一步着実に回り続けたいと思います。

銚子市民交響楽団

漁業と醤油と熱狂的に野球の好きな銚子市にも、数年前からのこころみであった、銚子市民による管弦楽団の結成が本年度に至り実現し、去る5月1日発会式を行ない、練習に入りました。

現在のメンバー総員30名程度で、これから更に目標人員50名以上にまで増員していきたいと思っております。実際に活動するにも楽器がなくてはどうにもならないので、市の援助により、オーボエ、ファゴット、バスドラ各1本、テンバニー、バスドラ、小太鼓、弦バスを購入して、週1回銚子市民館2階ホールを練習場として音を出しはじめました。楽団の現在の目標として、市民に愛される楽団であること、演奏曲目に背伸びをしない、自己の技術に相応した曲目であること、市民のみなさんが聴いてわかる曲を演奏するよう心掛けていきたいと考えています。

楽団員の現在の構成は男女の比率同じくらい。年齢最高で30才少し上くらいです。練習の出席の点になるとお互いに職業を持っており学校のクラブ練習のようなわけにはゆかず、欠席する者が多いのが残念です。種々の面で先輩諸氏のお力添をいただいで一人前のまとまった管弦楽団にしたいと思っております。終りに市長はじめ教育委員会、その他の方々の好意的な援助がありますことを心強く感じております。なお来年3月の終りに第1回の演奏会を開く予定であります。

埼玉交響楽団

敗戦の間もない昭和22年に、熊谷市に熊谷音楽同好会という会が出来た。その中にアンサンブルが8名で発足した、それが我が楽団の前身であります。その後、群衆の刺激を受けて、熊谷市を中心にメンバーをふやし、昭和28年頃より熊谷サロンオーケストラとして、16名程になりまして、市内及び、近くの都市の演奏会を続けて来たが、昭和30年代に入り、女性奏者の結婚やら、働きざかりの商店主の楽団よりの退団等あり、昭和35年頃には希望を失いがちになった為、新発足をと、ようやく現在の「埼玉交響楽団」の誕生を見ることが出来たが、名称変更の過程に何度か座礁しそうになり、苦境を乗り切ってきた。30名前後のメンバーでしたので50名ほどの頭数を必要とする交響楽団としては「トラケストラ」と云われる程のエキストラを必要として発足した為、名が重すぎるなど、いろいろと云われた。

団員数も、昭和40年代に入り、だんだん増えては来たが、人数の構成メンバーの変化が毎年あり、苦勞が多かった。

毎年2回の定演を続けて今年は20回の数となって来た。市内の演奏会及び、県内の巡回演奏会も年に6回程あり、その度に、弦と管のバランスが悪く、管は4管もあるのに対し、弦が各パートが2プル程度で、チェロが最近4プル程になって来たので、50年度、60年度と我々も遅れながらも先輩楽団の後に続いてオーケストラ運動の灯を消さぬ様に努力して行きたいと、そのことで夢を追って現在まで来ております。

山梨交響楽団

山梨交響楽団は一昨年の10月に「県民による県民のためのオーケストラ」として結成され、昨年3月第1回定期演奏会を開き、多数の県民の皆さまに聴いていただきました。その後、三鬼日雄先生を中心として、週1回の練習を楽しみのうちに着実に積み重ね、その間、テレビのローカル番組に出演したり、身延高校と身延町立小中学校より招かれて、2千名以上の方々にオーケストラの名曲を聴いていただきました。私たちは地方で行って演奏することの素晴らしさを肌感じて帰ってきました。

そして、今年3月3日、県民会館大ホールでベートーベンの運命交響曲、美しく青きドナウ、アルルの女第2組曲というプログラムで第2回定期演奏会を開きました。

どこのアマチュアオーケストラでも同じでしょうが、私たちも団員と練習所の確保、それに資金という難題にいつも直面しています。しかし、広く県民の方々のご支援をいただいで意義ある活動を今後も続けていく決意です。

富士ジュニアリードオーケストラ

全日本リード合奏連盟静岡県支部の加盟校に呼びかけて希望者を募り、昭和48年3月3日、団員59名で発足し現在では70名の団員で練習に励んでいる。

小学校5年生から中学生、高校3年までの児童生徒による合奏団であるが、発足当初からのメンバーが大部分で、パートチーフを中心によくまとまり「友愛と信義」をモットーに、よりよい人間関係をもち「和」を大切に今日まで演奏活動をつづけてきた。団員の成長に伴ない、技術的な面、音楽的な内容の面、心情の面などが深まり、組織も安定し、将来に期待のもてるまでに成長した。

第1年めは、静岡県リード合奏大会で初演し、富士市文化祭等で演奏。第2年めは、「親のない子のためのチャリティショー」、静岡県少年芸術祭で演奏するなど活動範囲も広くなり、昭和50年1月26日には、約1100名の聴衆を集めて第1回定期演奏会を開いた。

今年度は、昭和51年1月25日に第2回の定期演奏会を行う予定で、下、ドボルザーク作曲、交響曲第9番ホ短調「新世界から」を練習中である。

レパートリー

- ・ヘンデル 「水上の音楽」からアレグロデチーゾ
- ・ヨハンショトラウス 「皇帝円舞曲」
- ・モーツァルト 「弦楽セレナード」「ディヴェルトメント」K136 二長調 「フルート協奏曲」第2番 二長調
- ・バッハベル 「カノン」
- ・ベートーベン 「エグモント」序曲
- ・ブラームス 「ハンガリア舞曲」第5番
- ・シュベリウス 交響詩「フィンランディア」

静岡県交響楽団

静岡県といえば気候温暖な地として、又新幹線にのれば1時間半で東京へ行くことのできる便の良い地として知られています。文化活動に於ても非常に各界にわたって活発な活動をしているようです。音楽の分野では、合唱、吹奏楽等、全国的にみても高いレベルにあり、県民の音楽好きな一面をみせています。浜松という全国一の、いや世界でも有数の楽器生産地をかかえる県としては、むしろ活発なのは当然といえましょう。さてわが静岡県交響楽団は1970年12月に初顔合せを行なったアマチュアオーケストラです。“オケをつくるからとにかく来てくれ”と発起人数名が知人という知人を片っ端からアタック……とうとう80名近い人を集めてしまいました。誰が誰やらさっぱりわからないまま、すぐ音出しをはじめました。一都市では無理なので県下にわたってメンバー集めを行ない、最も遠い人は電車を乗りついでおよそ3時間。朝9時ころには家を出ないと間に合わないという人もいました。練習をやってもなかなか進まず、しかもゆっくり話し合う時間の余裕すら無い中で7回の練習を終え、第1回定期にのぞみました。その後年一回の定期、新たな企画によるコンサートがおおよそ2回～3回、音楽教室がおおよそ2回、こんなところが平均的なオケ活動です。現在の運営資金はコンサートの売上げだけ。スポンサー無し。しかしティンパニー、コントラバス、譜面台をそろえ今のところ赤字経営ではありません。(もちろん交通費等、団員の個人負担は相当なものです) 結成されて5年余、練習回数は少なくともアンサンブルの秀れたオケを目指しています。今後は定演の数もふやしていこうと思っています。

豊橋リードフィルハーモニー交響楽団

豊橋リードフィルハーモニー交響楽団が正式に発足したのが昭和40年5月ですから、ちょうど満10年がたったことになります。その間の諸々の出来事は語り尽くせないものがあります。しかし場を異なるとは言え同じ喜び、あるいは悩みを持つ仲間の中で多くを語る必要はないでしょう。

アマチュアオーケストラにとって何が一番大切で難しいかと言うと、上手になることではなく持続させる言うことです。古典落語に「寝床」という名作があります。ジャズマン山下洋輔氏が書かれた文から引用します。ただし桂文楽ではなく三遊亭円生のやる方にあるエピソードです。

あるときの旦那の義太夫の会は集りが悪く(勿論、皆、仮病を使って逃げたのだが)、やって来たのは横町の御隠居ひとりだった。それでも旦那はかまわず、さしてみっちり語り始める。その声の物凄さに、少し耳の遠いそれ故、まあ大丈夫だろうと周囲も楽観してひとりで行かせた一隠居も耐え切れず逃げようとする。しかし、唯一の聴き手を失ってなるものかと、旦那も見台を持ってにじり寄る。隠居はどうとうたまらず、表へ走り出た。旦那も語りながら後を追う。必死の隠居は、開いている蔵を見つけ、逃げ込んで戸を締める。一安心と思いきや、しぶとい旦那はハシゴをかけ、蔵の明り取りから中へ、義太夫を語り込んだ。隠居は七転八倒の苦しみ。三日間「義太熟」にうなされる。

私達もこの旦那のように、下手だろうがなんだろうがしつこくやり続け「クラシック熟」を蔓延させたいものです。

私達の楽団の活動は回りの人々だけでなく楽団自身の進む方向にたえず影響を与えてきました。昭和46年の東京公演からはアマチュアオーケストラ活動が広い視野を持たなければならないことを教えられ、日本アマチュアオーケストラ連盟結成のきっかけとなりました。アマチュアオーケストラフェスティバルは私達に本格的オーケストラを作ろうとする意欲を与えました。

豊橋リードフィルは今、過渡期にあります。11月末には名称が変更され本格的な新しいオーケストラに脱皮する筈です。その日に向けて力強く胎動しています。現在団員数112名、平均年齢19歳弱、きわめて意気盛ん。

名古屋市民管弦楽団

雨の日も、風の日も、大切な分身をかかえて出席しましょう。

市民オケに何を求めるか、それはあなたの自由です。けれど、これだけは約束してください。それは「参加」することです。練習はもちろんのこと、演奏会、合宿、リクリエーションなどの運営にも参加し、市民の音楽文化発展に寄与し、伝統芸術の継承と共に人間性の向上に努め、責任ある参加、毎回参加、積極的な参加、どれでも結構です。あなた自身の姿勢で参加しましょう。

以上は昨年つくられたオーケストラのしおりの第1頁に書いてある文章です。昭和33年12月に10数名で発足したメンバーも、今では120名になりようやく、文化不毛の地名古屋にどっしり腰を落ちつけたようです。このオーケストラの正式名称は名古屋市民管弦楽団と云っていますが通称市民オケで、どうもこちらの名前の方が通りがよいようです。名古屋には名古屋フィルハーモニーと云うプロの団体があり毎月定期演奏会を開いていますが、大学のオーケストラを除けば、市民オケ一つしかなく、年二回の定期には団員達の多くはひそかに、名フィルより良い演奏をとファイトを燃やしています。

最初の10年は基礎づくりに、次の5年は、常任指揮者を置いてより発展させ、現在では、各定期毎に客演指揮者を招いています。山岡重信、荒谷俊治、伴 有雄の各指揮者の元で、大いに団の演奏力も向上しました。次回の定演は、小泉ひろしさんを迎えて、12月13日(土)に第13回目の定期演奏会を名古屋市民会館大ホールで行います。曲目は、

ワグナー 「リエンツィ」 序曲 モーツアルト 交響曲第35番「ハフナー」

ベートーベン 交響曲第3番「英雄」

です。

各地のオーケストラの皆様、名古屋へお立寄の時はぜひ練習を見に来てください。

毎週火曜、午後6時半より、日本楽器名古屋支店7階ホールで練習しております。

三重フィルハーモニー交響楽団

三重フィルも誕生以来はや5年目を迎えることになりました。佐々木政一郎前津商工会議所会頭を代表に、音楽監督、常任指揮者の野上卓三博三重大助教授を中心に、コンサートマスターの松本善三先生、ホルン奏者で三重大助教授の沖公智先生などの指導で年々、その成果をあげてまいりました。現在、役員10名、団員96名、研究生5名の世帯です。

三重フィルは弦が特に充実し、ヴィオラなどは8プルとも可能かと思われるほどです。

下記は6月22日に行った第4回の定期演奏会のプログラムと本年度末までの予定です。

<第4回定期演奏会、6月22日>

指揮 野上卓三博

独奏者 小林 仁 (当団顧問)

悲しき旋律作品34……………グリーグ

ピアノ協奏曲作品16……………グリーグ

交響曲第5番「運命」作品67……………ベートーベン

<予 定>

10月29日「三重国体特別演奏会」

「フィンランディア」……………シベリウス

「ブルータンゴ」……………アンダーソン

交響曲第5番「運命」……………ベートーベン

12月1日「三重フィル・チャリティーコンサート」

未完成交響曲……………シューベルト

おもちゃの交響曲……………L・モーツアルト

マイ・フェア・レディ……………フレデリック・ロウ

クリスマス・フェスティバル……………L・アンダーソン

諏訪交響楽団

今年の9月13日、創立50周年記念・第81回定期演奏会を成功裏に終了することができました。おそらく全国数あるアマチュアオーケストラの中で最古の歴史を誇るのがわが諏訪交響楽団でしょう。諏訪交響楽団は、大正14年創立以来ささやかながら「地方の音楽文化のための運動」を続けてまいりました。当時僅か10余人のメンバーではじめた絃楽合奏団が、幾多の歴史を重ねるとともに発展し特にこの10年間には30人に及ぶ若いメンバーの参加があり、質的にも優れたこの人達のエネルギーにより演奏・運営の両面に意欲的な進展が行なわれました。その頂点がこのたびの記念コンサートに実を結んだといえますが、同時に又新しい前進の第一歩でありましょう。その間昭和39年には、小沢征爾の指揮による演奏会も開いています。

松本交響楽団

私達が松本交響楽団を結成しましたのは敗戦後間もない頃で、人心はすさみ、物資は乏しく、今日のような音楽ブームとでもいうような時代がやって来るとは思はれぬ時でした。私達はそれだけにかえて音楽と人間の生き方について、より真剣に考えていたように思われます。つまり私達が、あの時代にアマチュアばかりで、それもこうした松本のような一地方都市で、交響楽団を結成しようと決心したのは、音楽によって人間の心を豊かにし、気高くすることに大きな願いをかけたためであったように思われます。

私達はこの楽団員の中からすぐれた天才の輩出を願いませんし、又プロ楽団と競おうとも思いません。そのようなことは自ら別の人達の仕事であります。私達が常に願っていることは団員間の人の和であります。

私達は音楽を大切に考え、愛しております。私達の郷土の音楽文化をたかめるために、私達の仕事が地下水の役をすこしでも果せればよいと思っております。高い音楽文化も広い裾野がなくてはなりません。私達の仕事はその裾野を築くことに役立つと願っています。

金沢青少年交響楽団

昭和38年“少年少女合奏団”なるものが創立され、その記念演奏会を石川県婦人会館ホールで開催したのが当楽団のスタートです。それから端を発して以来、少年少女合奏団が、“アルモニコ金沢ジュニア合奏団”と名称が変り、金沢大学フィルハーモニーの学生諸君の有志の御協力を得てハイドンのシンフォニーやベートーベンの運命などを発表してきました。しだいにひとりアルモニコジュニア合奏団だけのものとしてではなく、金沢市、強いては石川県の青少年の為になる、青少年の手による青少年のオーケストラを創ろうではないかという気運が芽生えました。そして、一昨年アルモニコ金沢ジュニア合奏団とブラスアンサンブルを母体として“金沢青少年交響楽団”が誕生しました。

それ以来、全団員による運営となり、名実共に“青少年による青少年のための交響楽団”として活動を開始することになりました。団員は小学校4年以上高校生までが大半を占め、足りないパートに大人の賛助をお願いしています。先に名実共にといいましたが本当の意味の名実共には、こうしたパート団員の不足を解消できてこそと思うのですが、しかし現在の団員の心の結集から“よしやるぞ”という気概を感じ、“オレたちのオーケストラ”と言う自覚が生まれた今、パート欠員があっても“名実共に”と言って過言ではないと思います。

新潟交響楽団

昭和7年創立。当時の新潟医大、旧制新潟高校のオーケストラのメンバーと一般市民を統合して、11月22日第1回演奏会を開催した。その頃はメンバーも楽器も楽譜も揃わず、スコアやピアノ譜から写譜し、足りない楽器の分は他のパートに写し替えるなど、苦心しながら何んとか年一・二回の演奏会を続け、市民に大変親しまれていた。ところが支那事変が勃発し次第に戦争が激しくなるやメンバーの応召や物資の不足が甚しく、且つ音楽を楽しむなど悠長な時勢でなくなり、昭和16年6月29日追悼演奏会（創立当時の指揮者井坂吉二、コンマス中村哲夫両氏の）を最後に演奏会は開催出来なくなった。その後は残ったメンバーで細々と練習を続けたが、それも19年頃には休止の止むなきに至った。

終戦後21年、当団創立者の松木明が帰郷し、かつてのメンバーを集め再建に取りかかり、非常な努力を重ねて、演奏活動を再開した。初めは食糧の関係でドサ廻りをもっぱらとし、ようやく二管編成のオケとして昭和28年第1回定期演奏会を開催した。それ以後、年に一・二回の定期とその他の演奏会を続けて、本年7月14日第29回定期演奏会を持った。

現在。メンバー 約60名

演奏曲目 ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの交響曲を初め協奏曲、序曲、組曲等、ロマン派以前のもの、他のアマオケと大体似ている。

練習日 毎週金曜日、PM 7:00 ~ 9:30 市公会堂 中ホール。

大津管弦楽団

私共、大津管弦楽団は琵琶湖の畔、大津市の中央部にある、中央公民館に、月9回の練習に励んで参り、来年、25才を迎えるに到りました。社会の乾燥している昨今、少しでも心の潤いを求める人々に欠く事のできない芸術の一分野の演奏団体としての我が「大管」も、他のアマ・オケと同様、練習会場や運営費用、団員不足に頭を痛めつゝも毎月4回の分奏と5回の総練習に全力を尽して居る現在です。

昨年度の活動を御紹介しますと、滋賀県文化祭参加（彦根市巡回コンサート）大津市文化祭参加（山本直純氏によるユーモアコンサート）第46回定期演奏会（49年11月）大津市民会館竣工記念演奏会（50年4月）第47回定期演奏会（6月）室内楽演奏会（8月）滋賀県文化祭参加（長浜市巡回コンサート）及び第48回定期演奏会（11月予定）その他です。

ベートーベン、ブラームス、モーツァルト、チャイコフスキー、ドボルザークと有名大曲を、稚拙ながらも練習を積み重ねて行きますと、或る程度の技術を体得する訳ですが、その時点で、アマ・オケの宿命的課題とも云うべき問題が表面化して来るのは、私共の団だけではないでしょう。「大管」でも、前述しました三点の他に、この問題、即ち、団の運営の方向を、尚一層の技術向上と音楽性追求に置くべきか、或いは、それらを多少犠牲にしてでもサークル的団樂の場を多く残すべきかに就いて意見が団員間で分かれて来ると云う事が表面化し、運営上の問題となりつゝあります。運営上は当然、この両方を満たすべきでしょうが相反する要素も多々有り、更にこれが運営担当者にとっては両刃の剣でもあるので、その調整に苦心している現状です。この問題を克服する名案を持って居られる方が、ございましたら御教示下さい。

枚方室内管弦楽団

昭和29年9月、町の愛好者数人の呼びかけで市の公民館に集まった10名ばかりの若い学生やサラリーマンによって、枚方室内楽団が誕生した。楽器編成は、フルート、クラリネット、バイオリン、ビオラ、チェロと小編成で、曲目もバッハの組曲など。うす暗くて床のがたつく公民館のクラシックな会場とよくマッチしていた。それでも団員はけっこうこの夕べのひとときを愛していた。練習を始めて8ヵ月め、市民合唱団第8回発表会の賛助出演として枚方室内楽団の初ステージをふんだ。当時は10名たらずのメンバーで、ハイドンの軍隊交響曲を演奏するという大冒険をやったのけるという心臓の強さであった。その後メンバーも充実し、昭和32年には枚方室内管弦楽団と改め、市内各校訪問や病院等への慰問をしたが、ファゴットやホルンの奏者がなく、ピアノで代用したり、楽譜も手書きという苦勞もあった。それに、メンバーの移動（卒業、入学、転勤、結婚等々）による弦管のアンバランス。アマチュアの悲劇は、練習会場難から財政難、人材難から技術難など、楽団のあゆみは常にピンチの連続。それを20年も続けてきた力はいったい何だろう。オーケストラの魅力だろうか、団員の情熱だろうか、枚方市の文化行政の成果だろうか……。

枚方室内管弦楽団は、いま、結成当時とよく似た状態になりつつある。の中で、共通していえることは、音を創り出すよろこび、アンサンブルのよろこびを、だれよりも強く味わえるひとときをもつことができるということであろう。

西宮交響楽団

全国のアマオケの皆さん今日は!

我が西宮市は、恵まれた自然的、地理的条件のもと、いまでは人口40万、阪神都市圏におけるユニークな“住民・文教・レクリエーションのまち”です。そしてこの西宮市で有名なものには「灘の生一本」や春夏の全国高校野球でおなじみの「甲子園球場」そして、中学吹奏楽日本一の評判の「今津中学校」と阪神間で随一と自負する我が「西宮交響楽団」です。

我が西響（俗に団員の間では頭文字をとって関西のN響と呼んでいます。）も今年の12月で満23才になります。

現在、団員は約70人ですが、いざさかヴァイオリンが不足気味です。皆さんのなかで京阪神在住の方を御存知でしたら是非N響への入団をお願いして下さい。

さて、我々は9月の連休を利用して、兵庫県の北にある、日本海に面した竹野町という所へ60人の大部隊で巡回コンサートに出かけ大いなる成果を挙げて来ましたが、目下は10月の第33回定期演奏会を目指して「ブラームスの交響曲1番」を練習しております。

一方、12月には西宮市民のための西宮市民による「第9シンフォニーの夕べ」も予定されており、今年には市の市制50周年という記念すべき年でもあり市民の期待に応えるべく難曲に取り組んでおります。今年も多くの人々の御尽力でアマオケフェスティバルが開催され、豊橋で会ったあの人、広島で語り合ったこの人と会えることが出来このうえもない喜びに浸っております。

そして、今後ともこのフェスティバルがいつ迄も続けられる為に我が西宮交響楽団も微力を注がねばならないと心を新たにした次第であります。

広島ジュニアオーケストラ

いつもどこでも言うことであるが、オーケストラと言えば、それがプロであろうとアマであろうと演奏団体として一にも二にもみんなが寄り集まって演奏することをモットーとしているようであるし、むしろそれが当然であろう。しかし我が広島ジュニアオーケストラは育成団体つまり社会教育の一端として音楽を通して青少年を育成するという理念、目標のもとに運営されている。従って、

①団員募集のために華々しい宣伝をしたり、労力を費やすことはしない。はじめて楽器を手にする子どもたちが入団、それも人伝に聞いて加わって来る。指導員はまったく初心者達をゼロから教へ鍛えていくのである。

②演奏会は年1回、夏休みに開催するが楽団創立以来、今年が22年目であるが定期演奏会は今年第8回を終ったのである。殆んどの楽団が設立の年に第1回の旗上げ公演を行なうのであるが、当団では先づ経済的に人に頼らず我々の力で催せること、次にエキストラを沢山加えなくてもやれる能力を蓄えること、1年間の練習の成果を存分に発揮できること……などの条件を整えた時点で定演をもったのである。特に一昨年の創立20周年を契機として発足当初の原点にかえる運動を進めマスコミを介してPRすることもさけ、団員一人ひとりが直接チケットを売って、それも買って貰った人には必ず来ていただくよう働きかけ今年あたりから効果を生じている。

③当団はいわゆる名士の方々を一切役員に迎えず団員の中から役員を選びすべて運営されている。父兄や地域の名士は一後援会員として支援されているだけで決して表面に出ないし運営に口出しもせず全面支援である。

「子どもたちが、子どもたちによって、子どもたちの音楽を作る。」ことをモットーにおとな達が介添えしながら楽しい音楽生活を味わっている。以上当団の一断面の紹介である。

徳島市民管弦楽団

一般市民の音楽愛好家が、民主的な運営で、練習を重ねる中で、音楽的な技術や音楽性を追求し自らの意識を高めることによって、地域文化の向上を……と、1971年2月に30余名で産声を上げた徳島市民管弦楽団は今年80余名の楽団に成長してきました。

第一次世界大戦当時、徳島県内に抑留されていたポール・エンゲル管弦楽団と、徳島のモダンボーイ達とが演奏したベートーベンの第九交響曲も、昨年渡辺暁雄氏の指揮のもとに、57年ぶりに徳島市民管弦楽団と天理教音楽研究会合唱団とで、あの感激を再現し、4年間の創立期を終えることができました。

新しい第一歩を踏み出した今年からは、地域文化の向上への具体策として、広くオーケストラ音楽に親しみを感ずるよう7月にポップスコンサートを聞き、ルロイ・アンダースンの曲とか、歌劇のアリア集などを演奏し、また、9月には自らの力を向上させるために第5回定期演奏会を開き、チャイコフスキーの交響曲第5番などを演奏することによって音楽愛好家の輪を広げ、そして彼らと共に歩める楽団になろうと、今、頑張っております。

今までに演奏した曲目

モーツァルト	フルート協奏曲第2番
ベートーベン	交響曲第5番 交響曲第7番 交響曲第9番
	バイオリン協奏曲 エグモント序曲
ドボルザーク	交響曲第9番
チャイコフスキー	交響曲第5番 くるみ割り人形
ワグナー	ニュールンベルクのマイスタージンガーより前奏曲
グリーグ	ピアノ協奏曲
	その他

田川ジュニアオーケストラ

田川ジュニアオーケストラが生まれて15年になる。第一、第二ヴァイオリンとヴィオラで25名、チェロ10名、バス3名それに打楽器とピアノで約90名、小学、中、高校生に大学生が半数以上であるが官庁勤めのお兄さん、会社員、教員、うどん屋の社長さんにヘルメットをかぶった建設会社のおじさん等々と、老若男女あたくも大家族の様な和気あいあいとしたグループである。毎週木曜日の夕方ともなれば田川は勿論、近郊の直方、飯塚或は博多からも馳せ参じて合奏をたのしんでいる。技術の上手、下手よりもほんとに自分達のものとしてのしんでいる。九州の片田舎にこんな楽団があると云うその存在意義が大きいと思っている。練習場はこのオーケストラの創設者であり指揮者でもある伊藤光氏が御自身の屋敷の中に私財をなげうって建てられた小さい教室くらいの粗末な建物であるがアマチュアに徹しきって、スポンサーもなければ、会費もない。演奏会を目的としていないが、発表会等のときは臨時に徴集金を集めているが管楽器がそろわないのでよから交通費実費くらいで応援をたのむがそのつと伊藤氏のふところではほそっているはずである。練習場の横の母屋の古さがそれを物語っている。

「文化功労者」と云う言葉はこの人の為にあるのではないかといつも思う。ともあれ絃は伊藤氏の指導で近年かなり充実して来た。資金がないので管がそろわないのが残念である。

長崎交響楽団

昔は鎖国時代、300年間にわたって長崎は西洋文明の門戸でした。西洋音楽もまたこの長崎をとって入ってきました。それはバッハ以前からであり、出島の教会ではキリスト教音楽が歌われ、祝事の宴では世俗音楽が奏されていました。

しかし今の長崎はそのような文化遺産は音楽に関する限り皆無であり、しかも中央文化圏から遠く離れた西の果ての一地方都市として恵まれない環境にあります。ただ市民オーケストラの歴史は明治30年代に始まり、大正・昭和と変遷を繰返しながらも先人の努力によって続けられてきました。現在の長崎交響楽団は長崎開港400年を記念して、昭和45年に結成し、団員は市内を中心に諫早市、島原市遠くは五島列島からも加わっており、またそれらの土地には室内楽団や弦楽合奏団も生れております。長響は5年を過ぎその間29回の演奏会を開き、行政官庁や地域住民の理解と認識は深まってきつつあります。しかし地方のかなしさ、長崎には音楽学校も指導者もないという基盤の貧弱さから維持活動には多くの困難があり、演奏会では開催費の半分近くを客演奏者費に当てなければなりません。その他各団体共通の悩み（プレーヤー不足・練習場・資金不足・運営スタッフ不足等）も深刻です。ただオーケストラの存在はその土地の文化の水準を示すという理解のもとに維持発展に努力しています。全国の仲間の皆さん、機会がありましたらお立寄りいただきご指導をお願いします。

長崎交響楽団概要

団員数：約45名

常任指揮：安永武一郎（福岡教育大教授）

主な年間演奏会：定期2回。巡回演奏会1～2回。その他放送出演、市民音楽祭等。

練習場：長崎市民会館音楽室

練習日：毎週木曜日午後6:30～9:00

事務局：長崎市本河内町2712 電0958-26-7024（事務局長 松本寛三）

佐世保市民管弦楽団

1964年7月発足以来、こととして11年目を迎えました。

日本西果ての港町、人口25万の文化果つところとでも云いたい新興中都市に生れた市民管弦楽団だけに、みんなやる意欲、やりたい意欲は十二分に持っているのですが、ご多分に減れず周辺は過疎化の波の激しい曾ての産炭地。従ってプレーヤー不足、殊に弦部門のプレーヤーの少ないということが大きなネックとなって、大きく育てようにも育ちようがないというのが実情です。

メンバーは、毎年トラでいっばいの定演の外、このところ自分達だけの自主編成による室内楽、バロックを中心としてサマー・コンサートで憂さを晴らしています。何時かは市川市響のような大きな編成が出来るようなメンバーの獲得を夢見てはいるのですが、何分にも国家的文化施設の何一つない辺境都市では、所詮ドン・キホーテの夢のようなものでしょう。

この隘路を打開する方法としては、矢張り日本アマ・オケ連との強力な連携以外ないということだろうと考えています。西海国立公園観光の拠点都市、港外に無数に点在する九十九島の素晴らしい眺めの中で、平戸出身の詩人藤浦洸氏が佐世保市のために作った「空いっばいに空があるように、海いっばいに海があるように、人よ、心いっばいに、美しい心をもって、この海を、この空を、この土を愛そう」の詩を元に、団伊玖磨氏に作曲を依頼して完成した交声曲「西海讃歌」は、漸やく日本の音楽界の中にも認められ、昨年来日した北京の中央楽団も是非中国で演奏したいからということで団氏を通してスコアを送りました。

“空いっばいに空があるように……”が中国語でどのように訳されて歌われるのか楽しみです。

熊本交響楽団

熊響も最近はずいぶんやねえ。売れっ子でたい。演奏会の増ゆっとは、嬉しかこつばってんなあ。音はまず確か澄んではきとるよ。ホルンも、あんまり音ば、きゃあまちがわんごつなってきたし……。

ばってん、昔ん ごちゃごちゃした音のひびきが、なんとなし なつかしゅうなるこつの 最近 ようあつとたい。曲ばうまくやるこつが、第一の問題になってきたせいだろかなあ——。ほう、ようゆう安全第一ちゅうやつたい。どぎゃんしたっちゃ短か時間でまとむるこつが大事になってくるけんね。

最近の演奏会は、半年も覚えちゃおらんたい。次の演奏会のこつで頭がいっぱいだけんなあ。「あんとき Cla が音ば うっぱずして……へへへっ」 なんちゅうこつも、お茶の話題にもあんまりのぼらんごつなってきた。なんか高度成長の日本のごたるねえ。回転ばかる早うしてなあ。しよんなかつかねえ。熊本もやっぱ日本にあつとだけんねえ。

ばってん なんかがスギスギしてねえ。目の色かえてはりきつとるちゅう感じでたい。アマオケちゅうとは 何かいねえ。なんか 足の地についとらん感じのしてしよんなかばい。

筆者が ちーと 疲れとつとだろかなあ……。

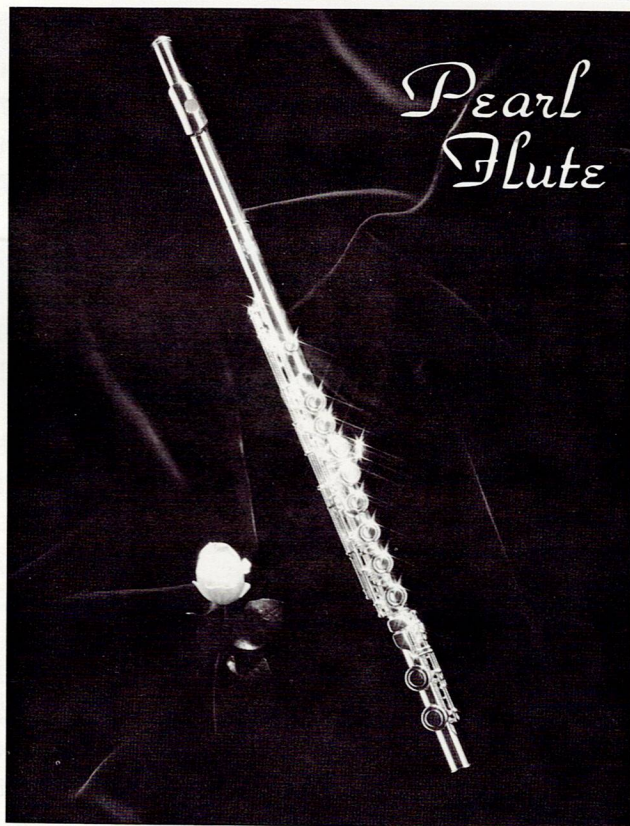
MBCジュニアオーケストラ

昭和39年5月、南日本放送が青少年の情操教育と地域文化の向上に役立てばと願って結成したオーケストラです。ジュニアですから、正団員は小・中・高校生で、おおよその平均年齢は14才。これにOBと一般有志、指導の先生方が加わり総勢約70名で毎週土曜日による練習を続けています。

演奏活動として、今年は8月に第12回定期演奏会と地方巡回コンサートをすませ、10月4日は県芸術祭に出演、12月にはクリスマスコンサートに出演することになっています。

普段はただの少年少女たちですが、ステージに上り楽器を手にすれば、大人以上の根性と度胸で演奏します。「本番に強いジュニアオケ」とよく言われます。

団員のごく一部は音楽大学へ進学しますが、そのほかの多くの団員の進路は多岐にわたっています。そして進学先の学校でオーケストラに入っているようです。卒業後は就職地の最寄りのアマチュアオーケストラに参加してほしいと願っています。



日本の音楽界では、すでに圧倒的に信頼されているパールフルート……その独特の美しい音色は、いまや世界中の様々なアーティストに注目されています。

- NC-96……特殊洋銀製……………¥ 36,500
- NC-96S……特殊洋銀製
(銀メッキ仕上げ)…¥ 51,500
- NS-97……特殊洋銀製
(頭部管銀)…¥ 67,000
- NST-97……総銀管製
(銀メッキ仕上げ)…¥ 104,500
- SS-98……総銀製
(スタンダード)…¥ 145,000

記名ハンドメイドフルート

- SS-100……総銀製……………¥ 280,000
- 製作者 下山龍見



パール楽器製造株式会社
千葉県八千代市八千代台西10-2-1

日本アマチュアオーケストラ連盟加盟団体

本 部	愛知県豊橋市向山大池町20-1 豊橋文化協会内	0532-61-6145
運営委員長 (河合彦一)	" " 駅前大通 2-46 名豊ビル新 6階東三河開発内	0532-55-5141~3
東京事務所	東京都文京区本駒込 6-15-19 伊藤順夫方	03-946-2882
東北・北海道ブロック		
帯広青少年リードオーケストラ	帯広市東二条南 9-3 竹中晟悟方	0155-22-3879
札幌フィルハーモニー管弦楽団	札幌市東区北11条東14条 坂井繁方	011-731-3285
(予定)青森市民交響楽団	青森市橋本 2-13-5 藤井一志方	0177-34-0645
(予定)八戸市民フィルハーモニー管弦楽団	八戸市城下 1-15-14 晴山泰二方	0178-43-5146
秋田市民管弦楽団	秋田市山王 1-1-1 教育委員会社会教育課内奥山	0188-63-2222
山形フィルハーモニーオーケストラ	山形市寿町 6-18 NHK中村昌人方	0236-23-8161
岩手県民オーケストラ	盛岡市高松 2-32-7 小笠原勇美方	0196-62-6664
郡山市民オーケストラ	郡山市堂前町 6-11 加藤輝彦方	0249-32-0466
関東ブロック		
茨城交響楽団	水戸市梅香町 1-2-8 水越善三方	0292-21-2302
栃木県交響楽団	宇都宮市埴田町 1-1-20 県教育委員会文化課内野村	0286-23-3143
市川交響楽団	市川市新田 2-33-10 村上正治方	0473-23-1619
習志野フィルハーモニー管弦楽団	習志野市鷺沼 2丁目 習志野市教育委員会内服部驍	0474-77-9111
前原ウィンドミルオーケストラ	船橋市前原西 2-28-1 前原小学校佐治薫子方	0474-72-2156
銚子市民交響楽団	銚子市末広町 3-235 教育委員会社会教育課内	0479-22-8181
埼玉交響楽団	熊谷市星川 2-29 安良岡清作方	0485-21-0507
中部ブロック		
山梨交響楽団	甲府市塩部 2-6-9 小川昭夫方	0552-53-3964
富士ジュニアオーケストラ	富士市宮市小泉 524-15 長谷川忍方	0544-27-8740
静岡県交響楽団	静岡市谷田 753-11 土井宣禎方	0542-62-3276
豊橋リードフィルハーモニー交響楽団	豊橋市西羽田町 43 羽田中学校森下元康方	0532-31-3145
名古屋市市民管弦楽団	名古屋市千種区鹿子町 5-24 加藤敏方	0527-81-0774
三重フィルハーモニー交響楽団	津市東丸の内 27-8 金子圭佑方	0592-25-3204
諏訪交響楽団	諏訪郡下諏訪町立町 3625 両角俊一方	0266-27-5943
松本交響楽団	松本市白坂町 1-1-1 松森正義方	0263-32-3849
金沢青少年交響楽団	金沢市堀川町 6-5 北陸音楽教育研究所内	0762-65-7004
新潟交響楽団	新潟市川端町 2-12 石本金属㈱内石本準一方	0252-28-3111
近畿・中国・四国ブロック		
大津管弦楽団	大津市松本 1-5-24 河原林晋方	0775-24-2930
枚方室内管弦楽団	枚方市堤町 8-20 鈴木孝道方	0720-43-3115
西宮交響楽団	西宮市岡田山 3-7 吉田晃方	0798-52-8299
広島ジュニアオーケストラ	広島市己斐西町 10-12 山口和彦方	0822-71-0025
徳島市民管弦楽団	徳島市二軒家町 3-1-14 松田稔方	0886-25-9955
九州ブロック		
田川ジュニアオーケストラ	田川市西平松 2 伊藤光方	0947-42-2772
長崎交響楽団	長崎市本河内町 2712 松本寛三方	0958-26-7024
佐世保市民管弦楽団	佐世保市梅田町 3-8 古賀八郎方	0956-23-0442
熊本交響楽団	熊本市南千反畑町 9-19 黒葛原契子方	0963-22-4854
MBCジュニアオーケストラ	鹿児島市高麗町 5-25 MBC学園内松沢	0992-25-0251

日本アマチュアオーケストラ連盟本部役員 及び 常任理事

理事長	神野 太郎	運営委員	森下 元康 (豊橋リードフィル代表兼務)	常任理事	山形フィルハーモニーオーケストラ (東北、北海道)
事務局長	小池 正太郎		山本 力造	(各地区代表)	市川交響楽団 (関東)
運営委員長	河合 彦一		伊奈 彦定		豊橋リードフィルハーモニー交響楽団 (中部)
副運営委員長	石井 一陽		足木 周二		西宮交響楽団 (近畿、中・四国)
		広報委員長	伊藤 順夫		佐世保市民管弦楽団 (九州)

日本アマチュアオーケストラ連盟フェスティバル千葉大会役員表

名誉会長	川上 紀一	実行委員長	村上 正治	実行委員	渋谷 寿光	監事	宇津木 勇
会長	泰道 照山	実行委員	今井 正	"	杉本 郁太郎	"	富田 英夫
		"	飯島 藤十郎	"	鈴木 忠兵衛	実行委員会事務局長	熊谷 信昭
		"	川崎 千春	"	泰道 三八	" 次長	伊藤 順夫
		"	岸本 義一	"	村岡 元一	"	服部 驍
		"	古賀 米吉	"	吉野 孝	"	天野 晶吉

日本アマチュアオーケストラ連盟フェスティバル千葉大会実行委員会事務局

総務委員会	委員	有吉 利幸	菅田 靖子	会場案内係	渡辺 左江子
委員長	"	上村 繁隆	竹村 房子	◎日光	只二
委員	財務委員会	熊谷 信昭	栗林 美津子	◎浅川	只二
"	委員長	竹中 靖	鈴木 和恵	高橋	春雄
"	委員	金指 和哉	藤代 公恵	川野 辺	徹夫
"	"	岡本 恂三	仲野 よしの	今井	保夫
"	"	米原 光夫	◎会場接待係	横田	玲子
"	会場受付係	◎松丸 悟	◎滝口 栄子	島根	フミ子
"	"	児井 敏雄	上原 隆一郎	高橋	八重子
"	"	浮ヶ谷 只仁	高山 公孝	阿部	智子
企画広報委員会	"	高沢 圭子	岩田 めぐみ	大川	和子
委員長	"	林 典子	田中 康幸	大川	和子
委員	"	井関 祐見子	谷村 国一	碓井	節子
"	"		蔵本 淳夫	尾崎	道子
"	"		高橋 隆一	稲垣	和子
"	"		川崎 盛徳		

共感の輪がひろがる予防安全の

コロナ 1600/1800/2000



←マークII・コロナ・ハイエース・トヨエース・マークIIバン・コロナバン→



★★★★★カーライフの窓口★★★★★

千葉トヨペット

本社・千葉市稲毛海岸4-5-1 ☎0472(41)1181・大代表 〒281